

【事業所名】 Switch 宇土

【対象サービス】 児童発達支援・放課後等デイサービス

ガイドラインに基づく事業所評価の集計結果表

チェック項目	評価点数（高→低）					改善目標・工夫している点など
	5点	4点	3点	2点	1点	
1 療育内容の改善に職員全体が参画できているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 月に一度会議をして子供に合わせた療育を行なっている 反省の時などに意見を出し合い、必要な経験や教材などを考えている 日々、振り返りで改善改良に心掛けている 話し合いの日にちを決めて、1週間前から予告して短い時間でも質のある会議を心がけている。 定期運動評価の見直し、知育サーキットの取り組み方及び評価、知育教材の充実 日々のミーティングで各々が意見を出し合う事が出来ている。
2 保護者様の意向等を把握し子どもの状況や課題について保護者と共通理解を持ちながら、支援内容の改善に努めているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談や電話での相談を行っている 保護者とよく話して情報共有をしようとしている 送迎時で保護者へ聞き取りを心掛けている 定期的な電話やメール、職員間での話し合いを実施している。必要に応じて保護者に向向いていただき、相談の場を設けている。 保護者とのメールや電話、公式LINEを用いたこまめな情報共有、訪問支援などで課題を事業所で評価したり、練習や経験を重ねる支援をしている 保護者への電話連絡や相談員との連携
3 アセスメントから子どもと保護者様のニーズや課題を分析した上で個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングをしながら計画見直しを事業所内で行われているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 全員で個別支援会議を行っている 職員間で話し合い、その子の発達段階がどの段階が必要な支援はどのようなものか話し合っている。 個別支援の会議だけでなく、職員間で疑問に思ったことや関わり方の支援が必要など時にケース会議を不定期で行い、タイムリーなタイミングで子どもたちのことを考える機会を作っている。 個別支援計画の際にはアセスメントを再度取り直ししたり、それ以外で保護者や関係機関から知り得た情報も、個別支援に反映できるように記入している。 個別支援計画書は児発管だけではなく、スタッフ全員で会議を行っている為、様々な視点からの計画が出来ている
4 支援提供の前には職員間でミーティングをし、その日行われる支援内容・役割分担の確認や支援の振り返り等を行っているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の朝礼で確認している 朝礼でしっかりと行って自分の動きを把握している ポイントを担当制にはしていないので、前回対応した職員から教材や関わり方を伝達してもらっている。朝礼では感覚遊びの日は感覚遊びの担当が、全身遊びの日は全身遊びの担当が活動内容とねらいや目的を話している。 役割分担はワークスに上げたり、前回、ポイントについて職員からこまめな情報共有をして支援に繋げている。 サービス終了後のミーティング
5 日々の支援に関して正しく記録をとり、支援の検証・改善につなげているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 写真を送れるともっと伝わりやすい 療育後は必ず記録と振り返りを行っている。 保護者に対して伝えてほしいことや、まだ伝えてほしくないこと(受け入れが難しい保護者)がある場合は書き方の工夫をしてもらう。必要に応じて保護者に電話で具体的な様子を伝えたりしている。また坦会後の利用時には、坦会で課題が上がったことを記録にも入れてもらっている。 記録以外でも、次回支援をするポイントなど、メモをして改善に繋げるようにしている
6 学校や園、その他関連機関との情報共有(就学支援等を含む)や連絡調整を適宜行っているか※学校・園への送迎時の対応も含む	5	1	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時など園での様子や療育中の様子を話しながら情報を共有するようにしている 送迎時だけでなく、電話をすることも。また、必要に応じて園長先生などにも時間を作っていただき、相談や共有することもある(先方がお忙しいので頻回ではないが、保護者との個人面談前には行っている)。 送迎時や訪問支援を利用し、情報共有をこまめに行なっている。学校に関しては、情報共有の温度差があり、共有の方法のすり合わせが必要
7 保護者様の対応力の向上を図る観点から、保護者様に対する助言等を行っているか	4	2	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談に向向いてもらったり、書籍の紹介・貸し出し、一緒に療育センターの勉強会に参加している。受診同行し保護者の理解度の確認、理解が難しい場合は噛み砕いて説明することもある。養育関係の支援が必要な保護者には親子療育を促し、実際の療育場面で学んでもらえる時間をつくっている。 定型発達の表や就学においては就学までに必要とされるスキルなど、視覚的な資料を用いて説明することが理解を促す一つの方法だと感じている 必要に応じて親子療育を促している
8 保護者様からの苦情について、対応の体制を整備すると共に保護者様に周知し苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5	1	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> メールや電話ですぐに対応するようにされている 苦情が聞かれないため分からない。しかし、職員には報連相を心がけてもらい、管理者が知らなかったということはないように普段から心がけている。もし苦情があった場合は会社へ相談後、保護者へ電話や訪問し、謝罪や説明をする必要があると思っている。 管理職に報告するとともに、迅速な対応はもちろんのこと、職員全体への周知、また折りに触れ、事例を再度周知するなど、再発防止に努めている
9 ヒヤリハットや事故報告書を作成・共有し、事業所内での再発予防に心がけているか	6	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 次の日に対応策を全員で共有している 全店舗で朝の朝礼時に共有するようにしている。 一人のヒューマンエラーとは捉えずに、システムエラーかもしれない視点を持っている。ヒヤリハットがあったときに、次からは気を付けようは無意味。そのようなエラーが起きないように環境を整えることが必要。また、危険を予測する視点を共有することが改善目標。そのために会社から優先順位(運動の研修会を参考)を明示してもらい、職員が誤った判断をしないようなシステムを要望する。 全体で共有、改善点を話し合い再発防止に努めている 朝礼で確認
10 職員の資質向上のための法人内での研修会が定期的に行われているか	6	1	0	0	0	
11 災害発生時に備えた訓練や身体拘束・虐待防止の研修等を定期的(年1回程度)に行っているか	6	1	0	0	0	